

宗教團體の組織につきて

阿 部 現 亮

如何なる團體にありても其の團體の支配者は其の團體の依つて來る原因を了解しなくてはならぬ。殊に其の團體が複雑なるものなるときは一層之を究明する必要がある。宗教團體が地上に於ける神佛の代表であると意識せられて、宗教的なる社會上の事象を取扱ふ機關であるとするならば、實に世界の最も複雑きわまる事件の集まれる團體といはねばならぬ。

教團の組織は如何なる風に組み立てらるゝとも其の根柢は宗教的意識に基礎づけられてあるのである。一軒の家が居間や臺所や寢室やさては圖書室まで備へられて、各部屋は夫れ々々の働きをなすが如くに、一軍隊に於て士官と兵卒とが其の分を遵守するが如くに、教團に於いても師と弟子と、僧侶と信徒とは互に彼等の爲す所をなしつゝ教團を支持して行くであらう。然し家屋にあれば軍隊にあれば、教團にあれば、一個のものを形成せる夫々の組織には其の本質の機能を動かしむる爲めであつて、本質を無視したる組織は該事物の效用を缺き、該團體の發達を阻害するものである。されば教團の組織に就きては、夫れが繁雜なる丈け夫れ丈け能力ある特殊の人の指揮によらざるべから

ざると共に、此に携はる人々の共同動作に俟たねばならぬ。而して教團の複雑なる機關は動もすると其の一致を缺き易く、仕事の運轉を阻害する困難に陷るのである。此の困難は常に教團組織の根本的目的や本質が輕んぜられたる事を證明するものである。

現代の教團の組織は原始的のものよりは遙かに複雑なるものである。それは社會の政治狀態や經濟狀態が愈々機關の複雑を増加すると共に、多面的なる生活に交渉を有する宗教團體が種々なる方面よりして接觸することに於て、益々多種の機關を具有する事となるからである。即ち或は嘗ては佛教日曜學校の如きものは夢想だもしえなかつた事でもあらう。無料宿泊所とか職業紹介所とかの社會事業を開設する機運も見へなかつたであらう。然しながら現代の如く、個々の仕事に夫々の専門家の手を煩はして大仕掛なる部門に區別して取扱はれたる事はないにせよ、一教團にて小さき機關でありながら人間生活の内面的にも外面的にも交渉をなしつゝあつた。即ち教團は傳道を始めとし、社交に入り、家庭を訪れ、幼兒の時分より教養を與へて善良なる人民たらしめんとする活動は小數とはいへ反つて質實に純粹に行はれた。此の小なる教團にては堅牢にて敏活な運動をなしたに拘はらず、組織を大にし機關の區分を生ずると共に圓滑に運轉しえざる障害に逢着する事の多いのは、教團の根本精神を流通する點に於いて一致を缺き、教團の眞の使命を離れて枝葉の點に走り、教團を聯結指揮する者と此を形成する會員信徒の訓練の足らざる處に歸するのである。

教團は精神的組織であるから精神なる要素を没却したる事柄は教團の取扱ふべきものでない。又教團は精神を要素にして組織されたる團體であるから教團は一個の單位である。教團内に獨立したる共同せざる要素を含有することは時計の機械に獨立したる分子の存在を許さいると同じである。各部分が相互に傷つくる事なく活動することによりて人體の獨立といふ事あるが如く、教團の存在は眞實其の信徒にあるのであるが、その組織に於て單獨に存在する事は許されないのである。更に又教團は個々の指導者や個々の信徒やのものでない。夫れ以上のものである。夫れ等の部分の總數以上のものである。即ち生存せる人間は解剖せられたる人體の個々の部分の總和よりも一層無限大であるが如くに、構成されたる教團なる單位によりて生ずる價值は個々のものゝ總和より大であらねばならぬ。精神を以て要素とせる以上其の價值は無限大であらねばならぬ。又此れを丁度動物の身體に於いて見るに 心臓や胃やなどの發達活動は他の機關なる頭や四肢などとは先に發達し行くものである。教團に於ても傳道や儀禮や教育などの機能は他の部門よりも發達を速にすべきものである。夫等は人間の知能の進歩に伴ふて發達すべきものであるから一步他の部門より早く且つ重んぜらるべきは當然である。

斯くて種々なる方面の要求と發達とに對して中心的權威が存在しなくてはならぬ。頭腦が人體に於ける機能の權威を訓練し具有する必要あるが如くに、教團は諸般の活動を實行せしめ行く相互の

共同動作を操縦し行く中心を有さねばならぬ。若し頭腦が知的にあらず活動的にもあらざるものなるときは其の身體は虛弱なると共に、其の行はるゝ仕事に於ても亦價值少きことは論を俟たぬ。即ち教團の總ての機關を動かし行くべき事務的統御者は如何なるものなるべきか。從來に於て此の教團の大勢の人の爲めにせらるゝ大なる責任をば自己の意志によらざる在職者によりて負擔せしめらるゝ事もあり、又他の多くの團體の管理の如くに考へて、自己の可能性と責任とを誤解せる者によつて處理せられたる事もあつた。如何なる事務的統御者によりて支配せらるべきか。そは必ず立法制定と實行と司法決定との三個の基本的義務を有するものである。即ち教團の事務主腦にありては全般に亙りて教團の存在といへる點に於て義務を認識すべき權威あるものでなくてはならぬ。又常に此を充分綿密に指揮統一する裁量あるものでなくてはならぬ。其の理想や計劃は現はれたる行爲の上に本質的の價值を認めらるべく努力しなくてはならぬ。此が爲めには此の教團の各事務分掌の各局各課の部門に於ての實行活動が常に教團全般の指示する方向に同一の步調をとらねばならぬ。萬一何れかの部局が行へる事に於て、不鮮明なる態度や行爲を發表することのある時には、此を直ちに矯正しうる果斷がなくてはならぬ。果して然らば斯る教團の組織上に於て如何なる形式をとる事が最上のものであらうか。現今宗教團體としての種々なるものを總合して且つ此れを分析すれば大約左の四種の形式に分類しうと思はる。

- (1) 管長制によるもの (Episcopalian)
- (2) 長老制によるもの (Presbyterian)
- (3) 組合制によるもの (Congregational)
- (4) 軍隊制によるもの (Salvation Army)

先づ管長制についてみるに此の團體の組織をなせる起源としてみるべきは、此を支配したる監督が教權に對する思想よりして教會の配下を自己の自由意志に、換言すれば專政的に取扱つた事によりて發生したものである。即ち自己の團體所屬の領域を管區に分野して、監督として任命配屬せしめ、中央統治者の命令の儘に運轉をなしてゐる。全く管長の獨裁によりてのみ總ての事柄は處理せらるゝものであるから、一方諸般の決裁に於て迅速なる行爲を得ると共に、他方中央集權としての短所も免れぬ。然し此の種の形體を有する宗團は最も力強く持久性と擴大性を有するものと思はる。現今基督教に於て舊教や英國教會や美以派なども此の中に入り、佛教も大半此の制度に區分せらる。

第二の長老制によるものとは元來教會政策に於ける民主制とも名くべく、基督教の使徒時代より既に存せるものであつて、一精神團體を運轉し行く上の發言權を代表者によりて有せしめらるゝものである。即ち長老は人々により或は人々の代表によりて選出さるゝものである。僧侶の職に就く

者は人々により或は人々の是認せる處に従ひて選任せられ、儀式宗儀を司り、又門侶徒弟の訓練をなすべき位置におかれるのである。されば各長老區域より選ばれたる代議制體であつて誠に中庸をえたる組織である。此の分類に入るものは蘇蘭士教會や合衆國長老教會やカルビニズム、バイブル クリスチャンの諸派である。

第三の組合制によるものは教權を執行すべき組織的結合なるものなく、一教會夫れ自身が單位となるのである。教會は一個の協會と解し其の教會内の代議員によりて會議し行くが故に、全く民主的な現今の文化的民衆心理を左右する上に團體としての長所現はるゝも、動もすると宗派を團結せしむるといふ責任觀念の缺亡する短所がある。組合派、洗禮教會、クエーカー等此の制による。

第四の軍隊制によるものとは救世軍と稱する團體であつて教理宗儀といふ點よりも現世的な社會運動の一種として取扱はる。此團體に加入する者は夫々軍隊的名稱によりて任官し上長の命に従つて活動す。

以上組織的に大別せられたる宗教團體組織につきて見るに、種々此に従へる理由も、或は信仰觀念により、或は人間性情の差によりて、或は教義の解釋によりて、或は其國の社會狀態が宗教團體に及ぼせる影響なども數ふる事は出來ると思はれる。而して如何なる形體に於て進めるものが宗教團體の基本的のものであらうか。宗教團體として採用すべき理想的のものであらうかを考へてみや

うと思ふ。

偕て如何なる團體の事務の統轄にありても感ずる所のものは民主的な事と能率的なる事であつて、此の二個の鍵鑰は事務の進捗上缺くべからざるものであらう。先づ民主的な合議によれる新知識と自由とを以てすれば團體の發達は疑を容れぬ所であるが、事が合議制なるときは餘りに徐々に行はれて決斷を缺くが故に、專政的に獨裁するに劣る事ありとの非難もあるが、最後には大なる能率を上ぐるに至るであらう。然しながら敎團の事務を統一する權威は常に單純なる一機關の團體に俟つべきであらう。

先づ宗教團體に於ては評議員の團體なるものを作るべく、此の評議員の資格や選出方法や其の數の件に關しては、常に一定の最低條件を設けて此に従ひ、其の任務としては宗教團體の所屬財産全部に關して責任を以て取扱はしむ。又此の評議員を任命しうべき權利はたゞ信仰儀禮のみを取扱ふ僧侶の中に存すべきものである。然し一度評議員に任命せられたるものにおいて、眞に彼等の仕事の能率を高むる爲めには、年度豫算に對する徵收の責任を有せしむ。夫は彼等が敎會の評議員として撰ばれたる特權を支持する爲めには當然の義務である。尙評議員は敎團が諸般の事業に對して目論見る積立財團等につきて、偶々此れが敎團中の財務官に委任せらるゝ事あるとも、評議員は充分に監督の責を有すべく、之れが支出の點につきて注意すべきである。此れ一方敎團に於ける精

神的義務として教義信仰に關して會員信徒の教養に努むべき事も、實は教團が財政の本質的に決定しなくては、屢々實行に當りて困難を伴ふことがあるからである。然るに此の點に關して應々始終を轉倒する事となる。夫れは教團の財政を強固になす爲めに此れに對する種々の方策の樹立である。財源の確立に對して手段を是認する場合がある。他の營利團體と同一に解するが如き評議員があるのみならず、時には屢々宗教團體の手に於て營利を目的とする或る種の商行爲が契約せられ、又は取引せらる。斯る行爲は宗教團體夫れ自體として行はるべきものでない。然し宗教團體自體の名に於てせざる間接の事業として行はれたる場合には如何に解釋すべきであるか。即ち宗教團體に所屬する評議員全體が其の宗團の豫算收入の責任を果はす爲めの目的を置きて一組合を設定し、商行爲或は相互利得の事業に着手して責任支出を至すとせば、教團に生氣を與ふる源泉とならう。されど此の間接の行爲なりとも評議員全體が各個人の名に於てなさるべき時に於てのみ許さるべきものであつて、事務統括者に於ては勿論其他の各事務分掌の各局課の事務員に於ても加入すべからざるものである。別して宗教團體所屬の精神的陶冶を職務とすべき僧侶傳道師の干與する事は禁ぜらるべきである。宗團に於て、教會に於て、管長、住職、牧師の職にして財務上に奔命すべくよぎなくせらるゝ事ある場合には、必ずや精神團體の名を失し宗教團體としての困難に陷るのである。之を要するに、宗教團體の主腦は全く精神的團結の統治者であつて、其の團體の會員信徒の數の

大小如何よりも、締結聯絡の確固なるや如何によりて責任を示すものと思はる。其の宗團の活動如何を左右する財源も評議員の統率にあるべく事務の主腦たる材を有せなくてはならぬ。然るに此の事務の統率者は僧侶間に推選されたる適材として其職に就くべきものであるが、明に敎權宗儀に關する權威は僧侶としても俗人としても相共に人格的に歸服しえらるゝ主腦でなくてはならぬ。されば敎團の活動は精神的概念に基かねばならぬから、一個人と其の金とは同じきものであり一なるものである。若も一人が全く神佛に屬するものとすれば彼の手に存する金も亦神佛に依存するものでなくてはならぬ。故に先づ第一に此の關係に於ける會員信徒の精神的生活を愛せんとする仕事は財政に基くものであつても、此の兩者の間には直接的に積極的に關係を有するものである。然も此の兩者相對の關係を確固にすることは立派な仕事である。されば來るべき宗團にありては會員信徒を訓練し行くことが最も必要にして彼等が適當なる方法によつて過去の傳習によつてのみ敎團に依屬するものでない事を明にして敎團に所屬する眞實の意味を理解せしめ、且つ彼等の誠ある活動こそ宗團の生命を左右するものであることを知らしめねばならぬ。然るに概ねの宗團にありては僧侶牧師のみによりて組織し支配し行くものと解し、會員信徒の參加を拒ぐのみならず、敎團の進展方向を指示せずして其の要求する處と相反するが如き事をなしつゝ、財政上の負擔のみを課せしめんとするは、自然僧侶と信徒、敎役者と會員との間に理解を缺きて敎團發展の障害を惹起するに至るで

あらう。僧侶のみによりて宗教を議すべき機關あると共に他方俗人のみによりて同一議題を協議すべき機關を缺いてはならぬ。現今にては宗教團體は僧侶のみの要求や考慮よりして施政を執りつゝあるが、來るべき教團にありては俗人にして尙此の宗教に参加せしむべく許されねばならぬ。即ち俗人の宗教團體に所屬する理解を充分ならしむると共に、自發的に此れが爲めに活動すべき訓練を與ふべきである。教團の教育課や社會課の分掌は一層此等の點に使命を感じなくてはならぬのである。